

実施体制



[主 催] 低炭素杯2014実行委員会(委員長：小宮山 宏)

[共 催] 株式会社LIXIL、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

[特別協賛] キリン株式会社、日本マクドナルド株式会社、公益財団法人損保ジャパン環境財団、レモンガス株式会社、株式会社タカラトミー

[特別協力] 株式会社オルタナ、特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク、
木原木材店(北はりま小径木加工センター)、有限会社モミヂヤ、野洲麻紙工房、ブリティッシュ・カウンシル

[後 援] 環境省、プラチナ構想ネットワーク

[事 務 局] 低炭素杯2014実行委員会事務局(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット)

実行委員会メンバー (順不同)

■委員長	小宮山 宏	プラチナ構想ネットワーク会長、三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問
■副委員長	川北 秀人	IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表
	金谷 年展	東京工業大学 ソリューション研究機構特任教授
■委員	伊藤 順朗	株式会社セブン&アイHLDGS. 取締役執行役員 CSR統括部シニアオフィサー 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 評議員
	水野 治幸	株式会社LIXIL CSR・環境経営推進部長
	井田 徹治	共同通信社 編集委員・論説委員
	和田 篤也	環境省 地球環境局地球温暖化対策課長
	長谷川 公一	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長

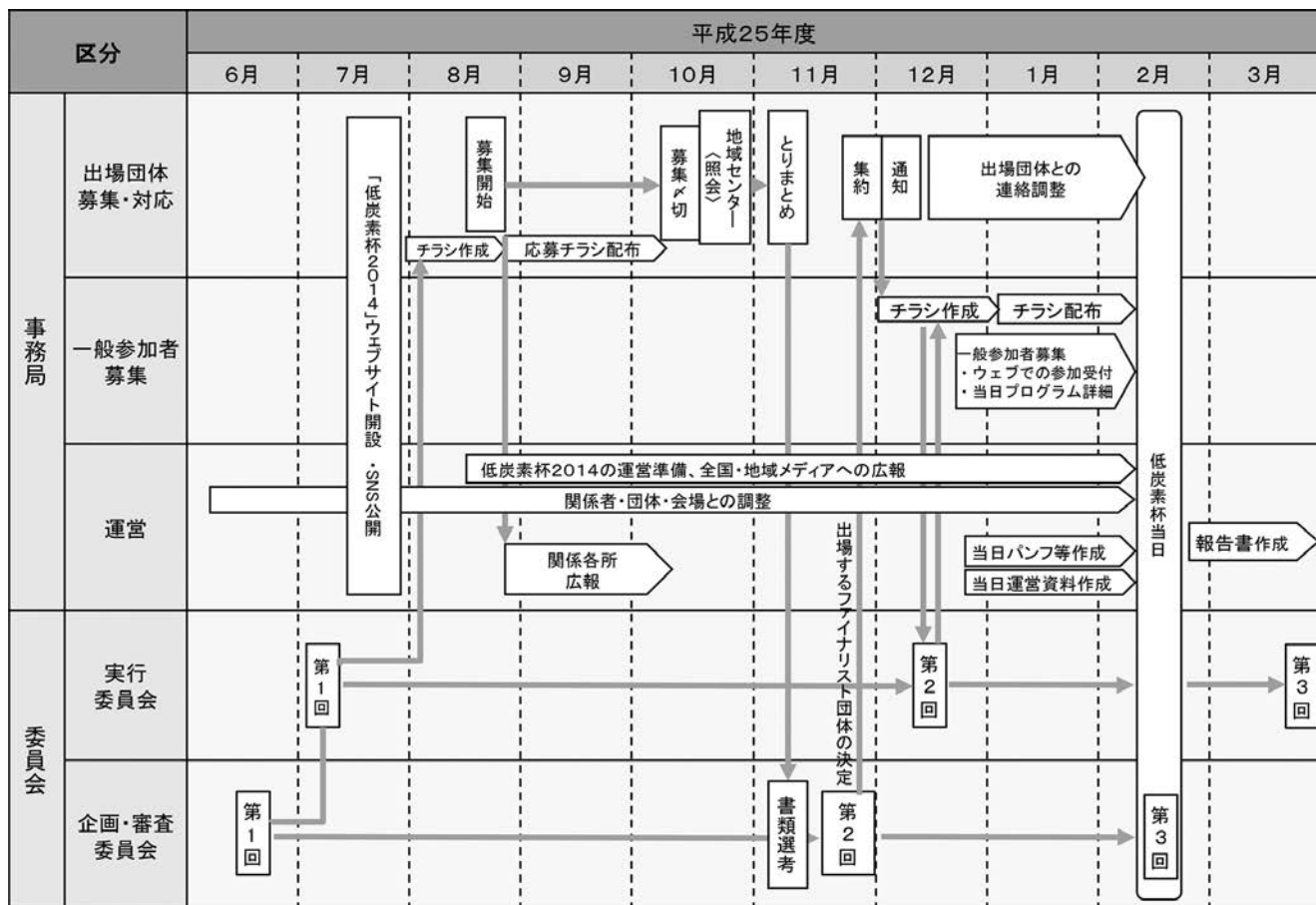
企画・審査委員会メンバー (順不同)

■委員長	金谷 年展	東京工業大学 ソリューション研究機構特任教授
■委員	小野 弘人	一般財団法人セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー
	山村 宜之	キリン株式会社 環境推進部環境情報担当主査
	岩谷 忠幸	NPO法人気象キャスターネットワーク 事務局長
	森 摂	株式会社オルタナ 代表取締役・編集長
	菌田 綾子	株式会社クレアン 代表取締役
	須藤 美智子	一般社団法人環境パートナーシップ会議 専務理事
	更井 徳子	公益財団法人損保ジャパン環境財団 事務局長
	高林 慎享	株式会社タカラトミー 社長室環境課長

低炭素杯 2014 開催までの経緯

2013年 6月27日	第1回低炭素杯2014企画・審査委員会開催
7月4日	第1回低炭素杯2014実行委員会開催
7月中旬	「低炭素杯2014」ウェブサイト開設、facebookのプレ公開(応募予告など)
8月26日	出場団体エントリー募集開始(期間:8/26~10/15) ウェブサイト・facebookにて応募サイト公開、環境省報道発表、 出場団体エントリー募集チラシ作成配布(約20,000枚)
10月15日	出場団体エントリー受付メ切
11月中旬	企画・審査委員による第一次書類審査
11月28日	第2回低炭素杯2014企画・審査委員会開催
12月20日	一般来場者募集開始・出場団体の発表、ウェブサイト・facebookにて公開、環境省報道発表 一般来場者募集チラシ作成配布(約19,000枚)
12月24日	第2回低炭素杯2014実行委員会
2014年 2月14日、15日	低炭素杯2014開催(15日第3回企画・審査委員会開催)
3月28日	第3回低炭素杯2014実行委員会開催

低炭素杯2014スケジュール



低炭素杯2014プログラムの概要

日本全国津々浦々、北は北海道から南は沖縄まで、各地域の多様な主体が低炭素社会の構築を目指し、個性あふれる様々な取組を展開しています。

その多様な活動のプレゼンテーションを通じて発信し、学びあい、連携の輪を広げる“場”を提供することを目的に、ファイナリスト41団体、一般来場者等、のべ1,500人が参集のもと、2014年2月14日、15日に東京ビックサイト国際会議場にて「低炭素杯2014」を開催いたしました。（※ファイナリスト41団体のうち、大雪の影響で1団体不出場となりました。）

プログラムの構成



プログラムのあらし

2014年2月14日(土) 13:00 ~ 17:30

- ◆開会式
- ◆ファイナリスト40団体によるプレゼンテーション

厳正なる審査を経て、15頁の41団体がファイナリストとして選ばれ、40団体が本選に臨みました。（大雪の影響で1団体不出場）各プレゼンテーションは、①低炭素杯社会づくりへの貢献度、②活動の必要性、③活動の効果・先駆性の共通観点と各部門別の観点を審査項目とし、9名の企画・審査委員により審査が行われました。

部門	当日の発表順	団体名称	取り組み名称	所在地	掲載ページ
地域活動部門 計11団体	37	湯原町旅館協同組合	町を挙げてのBDF事業を温泉街の活性化事業に活用	岡山県	37
	13	特定非営利活動法人 こにふぁくらぶ	香川県下の人工林の整備と地球温暖化防止活動	香川県	46
	9	特定非営利活動法人 秋田パドラーズ	自慢の秋田杉カヌーで元気もり(森)もり(森)カーボン・オフセット(CO2削減のメカニズムと森林自然環境を植樹やカヌーによって学ぶ事業)	秋田県	47
	1	陸奥湾の高温からホタテを守る植樹祭実行委員会	海水温の上昇を植林で抑えて陸奥湾のホタテを持続可能な資源に	青森県	48
	40	グリーン(ゴーヤ)カーテン菊陽 & 菊陽町地域環境協議会	グリーン(ゴーヤ)カーテン作りで町おこし～節電の取り組み及びカーテンのCO2吸収量調査～	熊本県	49
	34	一関地球温暖化対策地域協議会	省エネ・創エネキャラバン隊「太陽光発電 生の声を聞く会」	岩手県	29
	14	NPO地域づくり工房	自然エネルギーを活用した地域おこし活動	長野県	50
	20	横浜市資源リサイクル事業協同組合	小学生が家族で考える環境問題！小学生を対象とした「環境絵日記」コンクールの実施	神奈川県	51
	29	筑西市商工会エコの木プロジェクト部会・エコカレッジ23・茨城大学ICAS・いばらき自然エネルギーネットワーク	地域連携で生み出す自然エネルギー体験教室	茨城県	52
	25	株式会社昭和自動車学校	Do Light！フェスタ「夜も明るい通学路」プロジェクト presented by SHOWA	静岡県	25
	3	最上町	森がなくなると健康と福祉の絆でつくる低炭素社会	山形県	53
企業活動部門 計12団体	39	株式会社トワード	エコドライブの普及による二酸化炭素排出削減	佐賀県	54
	31	高千穂シラス株式会社	シラス塗壁材で低炭素化社会のビジネスモデル構築	宮崎県	55
	8	武田薬品工業株式会社	サトウキビからはじめる医薬品ボトルの低炭素化	大阪府	42
	28	T・プラン株式会社	エコな乗り物にはエコなエネルギーで	大分県	56
	19	株式会社ウジエスーパー&株式会社ウジエクリーンサービス(障がい者特例子会社)	『エコガニック with ノーマライゼーション』食品スーパーが提案する環境ループ事業	宮城県	24
	33	鹿島建設株式会社	ヤギの参勤交代による癒しとエコの緑地管理 ～ゴミなし、音なし、低炭素～	東京都	36
	15	味の素株式会社 九州事業所 アグリ事業グループ	九州工場の安全・安心・安価(3安)な副産物を用いた高付加価値農業バリューチェーンの構築と低炭素化への貢献	佐賀県	33
	18	日本アイ・ビー・エム株式会社	日本IBM箱崎本社における25年間に渡るエネルギー削減の取り組み	東京都	57
	26	ファインモーターズスクール	運転免許取得時に自然とエコドライブが身に付く教習カリキュラム「楽エコ教習」を中心とするエコドライブ普及活動	埼玉県	41
	23	株式会社ショウエイ	「水」を通じた環境授業等による啓発活動と事業所における環境配慮の取組	神奈川県	45
6	株式会社シェルター	森林整備を促す「木造都市*づくり」への挑戦	山形県	31	
38	協栄産業株式会社 ペットボトル循環推進プロジェクトチーム	栃木発！ペットボトルリサイクルはみんなの財産	栃木県	26	
パートナーシップ部門 計7団体	11	食のみやぎ復興ネットワーク	食のみやぎ復興ネットワーク なたねプロジェクト	宮城県	58
	17	三重大学環境ISO学生委員会	三重大学環境ISO学生委員会による大学・学生・地域をつなげる低炭素社会への持続発展的な取り組み	三重県	59
	35	函館市地球温暖化対策地域推進協議会	光の街はこだて あかりプロジェクト構想	北海道	60
	41	株式会社ゼロテクノ	産業廃棄物の再資源化で二酸化炭素の発生を削減・抑制する混和材料の創造	大分県	43
	22	有限会社リビング館ホンダ	CO2削減と明るい未来を子供たちのために願いを込めて	茨城県	44
	5	阿南高専 再生可能エネルギー研究会	ドイツ青少年への小水力発電による再生可能エネルギー教育と開発装置の訴求活動	徳島県	27
	2	みとよヤングエコサミット ※大雪の影響で不出場	みとよヤングエコサミット ～三豊市から広げるエコ活動～	香川県	64
学生活動部門 計11団体	21	青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS	花で創るエコタウン・プロジェクト	青森県	61
	7	京都府長岡京市立長岡第四小学校	“目指せ1t”～地域を動かした子どもたちの合言葉～	京都府	35
	10	沖縄県立八重山農林高等学校	木づかいで守れ、八重山の自然！～ものづくりで挑む、低炭素社会の確立！～	沖縄県	62
	27	チャリさがさいせい	チャリツーリズム(イベント等での自転車利用推進)	佐賀県	63
	36	広島県呉市立長迫小学校 第4学年	長迫・緑のカーテンプロジェクト	広島県	34
	32	岐阜県立加茂農林高等学校 林業工学科 環境班	持続可能な里山づくり ～CO2排出抑制のヒントは里山にあった～	岐阜県	39
	30	宮城県農業高等学校科学部復興プロジェクトチーム	桜香る緑の大地へ～簡易な根群域除塩法の開発と普及～	宮城県	38
	16	秋田県立秋田工業高等学校 メカクラブ同好会レーシング班	エコレース活動にチャレンジして～エコ技術は次世代へのO・MO・TE・NA・SHI～	秋田県	40
	4	鹿児島県立鹿児島水産高等学校	里海を守る活動による温暖化防止活動～サンゴ保全・再生活動～	鹿児島県	30
	12	山形県立東根工業高等学校	続ける手作り太陽電池パネルと資源の有効活用～持続可能なまちづくりのために～	山形県	32
	24	大分県立玖珠農業高等学校 チーム野菜	パークを中心とした循環型農業の展開 校内から地域へ	大分県	28

2014年2月14日(金) 18:30～20:00

◆団体間交流会 ※大雪の影響で中止

2月14日夜、会場近くで予定されていた団体間交流会は大雪の影響を考慮し、安全を第一に考え中止となりました。キリン株式会社、出場団体、各地域センターから多くの各種の飲料、地域名産品などをご提供いただき、200名以上が参加して交流を深める予定でした。

2014年2月15日(土) 10:00～11:30

◆企画・審査委員会による表彰団体の選考

2月14日に行われた40団体によるプレゼンテーションを各委員が審査した結果をもとに、企画・審査委員会を開催し、各賞の受賞団体が決定されました。

甲乙つけがたい素晴らしいプレゼンテーションが多かったこともあり、当初予定していた賞に加え、企画・審査委員特別賞として最優秀ソーシャルイノベーション賞と最優秀復興イノベーション賞が追加表彰されました。

2014年2月15日(土) 13:00～15:00

◆〈同時開催〉特別シンポジウム

低炭素杯4年目をむかえるにあたり、低炭素杯の過去のグランプリ受賞者だけでなく、プラチナ大賞、環境大臣表彰、エコロン、エコプロダクツ大賞など他の受賞者とともに、低炭素活動の最前線を学びつつ、そのDNAを共に将来へ継承していくため、各分野の受賞者の受賞後の取組や地域貢献の事例などを情報交換しました。悪天候の影響でプログラムの変動があったが、基調講演とパネルディスカッションを通じ、お互いの低炭素活動を強化していくアイデアが生まれ、より低炭素社会に向けて先進性を確立していくきっかけとなりました。

○ **パネルディスカッション 低炭素最前線から学ぼう! CO2削減『日本一』大集合!**

コーディネーター

川北 秀人 IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表

パネリスト(登場順)

花本 靖 氏 徳島県上勝町町長

石川 勝一 氏 東京都東久留米市市民環境会議 座長

竹元 柚香 氏 芝浦工業大学システム理工学部生命科学科1年「石垣島を元気にするプロジェクト」メンバー

斎藤 直 氏 三菱電機株式会社 静岡製作所ルームエアコン製造部技術第一課 課長

小森 芳次 氏 栃木県立栃木農業高校 教諭

○ **基調講演 『里山資本主義』のススメ**

井上 恭介 氏 NHK広島取材班(日本放送協会広島放送局) 報道番組チーフ・プロデューサー

2014年2月15日(土) 15:30～17:00

◆審査結果発表・表彰式

◆閉会式

環境大臣賞としてグランプリ(1団体)、金賞(各部門から1団体、計4団体)が授与されました。企画・審査委員特別賞として、当日追加表彰された最優秀ソーシャルイノベーション賞には7団体、最優秀復興イノベーション賞には1団体を表彰しました。また、共催・協賛・協力企業/団体賞として7団体を表彰しました。

一般市民を対象に公募した「一般審査員(応募33名、当日参加18名)」が審査した一般審査員特別賞は、2団体を表彰しました。

なお、低炭素杯2014のトロフィーは、昨年度の環境大臣賞グランプリ受賞者でもあり、今回のトロフィー制作の一環として実施したワークショップに、参加協力していただいた栃木県立栃木農業高校の3年生2名から、環境大臣賞の各団体に贈られました。

ロビー展示について

低炭素杯2014のメイン会場のロビーでは、2月14日、15日の2日間にわたり様々な展示企画をご用意いたしました。



◆展示内容

○ 共催・協賛・協力企業／団体ブース

低炭素杯2014に賛同いただき、共催・協賛・協力いただいている企業や団体が取り組まれている環境活動をご紹介します。

○ 低炭素杯2014トロフィー

造形家の齊藤公太郎氏制作による、低炭素杯2014環境大臣賞(グランプリ1個、金賞各部門4個)の受賞者に贈呈されるトロフィーの展示。

○ 地域協同ワークショップ写真展

低炭素杯2012、2013のグランプリを連覇した栃木県立栃木農業高校の生徒が、栃木県鹿沼市立永野小学校3-4年生(14名)と、栃木県の地域資源「麻」を活かして開催した「地域協同ワークショップ」の写真を展示。造形家の齊藤公太郎氏には、このワークショップを通じて低炭素杯2014のトロフィーの制作をしていただきました。

○ 出場団体ご紹介パンフレットコーナー

低炭素杯2014にファイナリストとして出場する各団体の活動を紹介するパンフレットコーナー。



■共催・協賛・協力企業／団体ブース

今回から初の試みとして、「低炭素杯」の活動にご賛同いただき共催、協賛、協力いただいている企業や団体自身が行き組まれている環境活動を、ロビーにブースを設けてご紹介いたしました。

ロビーでは各社のパンフレットやペーパーウェイトが配られ、多くの来場者が展示に見入っていました。



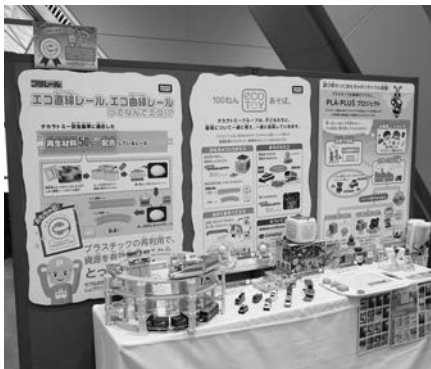
株式会社LIXIL



セブン-イレブン記念財団



株式会社オルタナ
環境パートナーシップ会議
キリン株式会社
損保ジャパン環境財団



株式会社タカラトミー



木原木材店

■出場団体ブース

低炭素杯2014にファイナリストとして出場する各団体の活動をご紹介するパンフレットコーナーを設けました。希望のあった団体のみ設置をし、2日間にかけて多くの来場者が興味のある団体のパンフレットを持ち帰っている様子が見られました。



低炭素杯2014 トロフィー

トロフィー制作への思い

近年益々、猛威を振るう異常気象と自然災害、人間の愚行の尻拭いに奔走する人々、「何とかしなければ」と高い意識を持ち立ち上がり、行動するひとびとが此処にいます。

低炭素社会の実現に向け、地球温暖化防止活動に取り組むその姿に値する「表彰杯」とは。

災害で倒れた風倒木、その背景を語るには十分な素材に、彫刻という人間らしい行為で新たに命を吹き込み、個々の個性と一人一人のその活動の芽が大きく育ち、それぞれの活動の輪が世界へと羽ばたくよう、祈りをこめて制作させて頂きました。

「低炭素杯」が機軸となり、地球温暖化防止への取り組みが大きくなうねりと成り、低炭素社会の実現に一歩でも早く近づける事を、皆様に期待しております。

齊藤 公太郎



齊藤 公太郎 氏

Wood art green art QUPO 主宰 URL : <http://woodart-qupo.com/>

風倒木、廃材などを素材とし、eco、自然環境を制作テーマとする木工造形家。

有機農法を通して自然環境問題に取り組む有機農業者。東北地方にルーツを持ち、現在は群馬県に在住。風倒木を用いた低炭素杯の環境大臣賞受賞者のトロフィーなどを手掛けてきたアーティスト。低炭素杯2013では、東日本大震災を乗り越えて卒業を迎える福島県の野木沢小学校の子供たちが、自分自身の贈り物とするため、齊藤氏の指導のもとにトロフィー制作ワークショップを実施し、そのワークショップと同じ素材を使って低炭素杯2013のトロフィーを完成させました。

地域協同ワークショップ写真展

低炭素杯2012、2013の環境大臣賞グランプリの授賞団体でもあり、この栃木農業高等学校の生徒たちを率いる環境活動の担当教諭でもある小森芳次先生から、次世代に残すべき地元・栃木の環境を考え、また地元を代表する素材を活かした「トロフィーづくりプロジェクト」の組み立てはできないものか、ご提案をいただき立ち上がったのが、栃木の一部地域でしか収穫できない資源「麻」を活かした「麻の地域協同ワークショップ」です。

このワークショップに参加するのは、栃木農業高等学校の「むらおこしプロジェクト班」の面々と、彼らの一部の生徒たちの出身小学校でもある「鹿沼市立永野小学校」の3年生と4年生で構成された14人の生徒たちです。麻の紙漉きや芯縄づくりを体験しながら、それぞれの生徒たちがペアを組んで、テーマを創出し、協同して作品をつくりあげました。子供たちの作品及び、ワークショップの実施の様子は写真展にして低炭素杯2014のロビーに展示を行いました。



地域協同ワークショップ ～制作過程～

2013年 10月30日	高校生と小学生の顔合わせ、麻についてのお話
11月25日	麻紙すき体験、芯縄づくり体験
12月19日、20日	麻の素材を用いて工作
2014年 2月14、15日	低炭素杯2014会場ロビーにて、子供たちの作品と写真を展示



栃木県鹿沼市立永野小学校 教諭
小笠原 弘之氏

初め、お話をいただいた時は、「本校の3、4年生で大丈夫なのか。」と考えていました。しかし、子どもたちに笑顔で懇切丁寧に接して下さった関係者の皆さんのおかげでその不安はすぐに解消されました。「芯縄作り」「麻紙すき」を体験させていただき、さらに麻を素材に使った、環境保全の願いをこめたトロフィーを作り上げることができました。もちろん、子どもたちは、大喜びでしたが、子どもたちにとって、あまりにも身近な「麻」という素材のすばらしさが実感できたことは貴重な体験であったと思います。また、子どもたちに、「自然を大切にしていこう。」という意識を高めるよききっかけになりました。これも、造形家の齊藤さんをはじめ、地球温暖化防止全国ネットのスタッフの皆様、そして栃木農業高校の先生方と生徒たちのご支援の賜であると思います。本当にありがとうございました。



栃木県立栃木農業高校 教諭
小森 芳次氏

低炭素杯全国大会は、日本各地で温暖化・省エネ対策などに取り組んでいる企業、官公庁、学生などが一堂に集まる全国一の環境大会です。小さな集落から大企業まで自分たちで創意工夫をこらし、暮らしの中で生き続けていく環境や生活の改善という目標に向かって頑張っている四十数チームの人達の姿に感動を受けています。

私たち農高生は、地域と歩む環境保全のプロジェクトを立ち上げ、山村の原風景の復活やヨシの湿原を次世代に継承する活動を続けてきました。生徒達は大会に参加する中、多くの体験や発表会などで「生きる力」を育てられた場であると思われます。

今後も低炭素杯全国大会が地球温暖化対策の日本の牽引役となることを願っています。

